

高須城下や周辺を巡り、歴史を学び触れることが当時を偲ぶ、平坦でゆったりと走りやすいコース

7.0km 55分



P 駐車場 T トイレ A 公園 R 駅 RENTAL レンタサイクル



高須城下・旧武家屋敷

高須の城は約500年前の創建とされ、江戸時代には徳永氏二代・小笠原氏一代、そして明治まで十三代ついた松平氏が歴代城主としてこの地を治めました。海津町高須町には今も旧武家屋敷が点在し、当時を偲ぶことができます。



主水橋

この橋は徳永寿昌の家老の1人、稻葉主水の屋敷が橋のほとりにあったことから主水橋と呼ばれてきました。かつては板の橋であり、北側には土塁（小さな土堤）があり、番所が建てられていました。高須城の堀の遺構が現在もこの辺りに残っています。



海津図書館

「くらしに役立つ、市民のための図書館」を目指し、図書に限らず、AV資料（映像等）や新聞、雑誌など多彩な形態の資料を所蔵しています。現在、蔵書数は8万冊を超えていま



高須別院梵鐘（高須別院）

高須藩主初代松平義行が宝永2年（1705年）、城下の時の鐘として、尾張の水野太郎左衛門政良に命じて鋳造させ、高須城下端応院に置きました。ここにあるのは、当時の高須藩主10代松平義建の発願でこの寺が建てられた縁によると考えられます。



歴史民俗資料館

1階に“海津の縄文時代”と“海津の古墳時代”的コーナーがあり、2階では輪中の歴史や生活文化について実物や模型で学ぶことができます。3階部分は高須藩松平氏の御館の一部を復元展示しています。



駒池

むかし高須藩主松平義行が高須在城のとき、愛馬の脚をこの池で洗ってしばらく池の中で休ませていたところ馬の姿が見えなくなってしまい、驚いて池の中を調べたら馬が池の底でスッポンに食べられてしまっていたことから駒池という名前が付けられたという逸話があります。現在は多くの釣り客で賑わっています。



金廻四間門樋

樋門とはいわゆる排水管の類で、江戸時代には沢樋（いりひ）とも呼ばれ近代にかけて水場地帯に多く築造されています。この四間門樋は明治17年（1884年）頃設置され、昭和10年（1935年）頃不用となり埋蔵されたと推定されており、近代産業遺産として後世に残すため一部を復元し歴史民俗資料館に保管されています。



徳永寿昌墓碑（廣徳寺）

高須城下の創成にかかわった徳永寿昌の墓で、宝曆10年（1760年）、寿昌の百五十年忌に子孫が建立したものです。徳永氏は寿昌の子昌重の時、大阪城築修に落ち度があって高須を追われますが、昌重の子昌勝の時に許され、幕府の旗本となっています。



海津北部 高須城下町コース

① 拡大図

② 注意箇所

トイレ

駐車場

交番

学校

自転車店

コンビニ

温泉・入浴施設

